



ニッポン名城 技めぐり

城から学べる
“Construction”

Vol.04

(提供：三浦正幸教授)

豊臣政権時代

徳川政権時代(慶長年間)

徳川政権時代(元和年間以降)

幕末

関ヶ原の戦い以降、大名の配置換えを機に起きた“築城ブーム”で城造りの技術が飛躍的に向上

姫路城

| | |
|-------|--|
| 所在地 | 兵庫県姫路市 |
| 築城年 | 1580(天正8年) |
| 築城主 | 羽柴秀吉 |
| 主な改修者 | 池田輝政、本多忠政 |
| 保存状態 | 天守・櫓など主要建築物のほとんどが現存。大天守・小天守・櫓8棟が国宝。1993年には世界文化遺産にも登録された。 |

優雅な外観に隠された、最強クラスの軍備の数々

姫路城が本格的な近世城郭となったのは1580年、羽柴秀吉が中国地方の覇者・毛利氏を攻める際の拠点に定めた時だと言われる。その後、1600年の関ヶ原の戦いで東軍武将として戦った池田輝政が、徳川家康からこの地を与えられて姫路藩主となり、8年の歳月をかけて現在見られる姿に大規模拡張した。優美なフォルムから「白鷺城」の異名も持つが、池田輝政による拡張当時は徳川・豊臣の冷戦下だったため、無数の鉄砲狭間(てっぽうさま)や石落とし、鉄砲の煙をすばやく排出する排煙窓、外部を偵察するための覗き窓など、厳しい戦いを想定した防御機構が各所に備えられており、軍事施設としても最高の性能を持つとされている。



鉄砲狭間や石落とし、覗き窓・排煙窓などが各所に配備され、重武装された城であることがわかる。しかし歴史上、実際に戦いの舞台となることはなかった。(提供：三浦正幸教授)

続きは動画をチェック!



日本の建築史を専門とする広島大学名誉教授・三浦正幸教授の解説動画をこちらからご覧いただけます。

三浦正幸教授…東京大学工学部建築学科卒。建築学者、工学博士、一級建築士。NHK大河ドラマの建築考証担当、城郭や社寺建築に関する著書多数。

